

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	平均
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1				
1 ・ 育 成 人 材 像	1 理念・目的・育人人材像	5		学校の将来を組織運営面と教育＝人材育成面の両視点から捉えている。常に5年先を見据えて事業計画を立てて実行しており、将来構想を明文化し運営している。	常に業界とのコミュニケーションを図り、業界から遊離せず産学協同での教育を心がけている。コロナ禍で実習の仕方を指す育成像と感染状況を見てのその都度考えて行う必要があった。	5
	2 運営方針	5		法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうこと(年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議、課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	学校運営をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを前提としている。	5
3 事業計画	5		法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てること、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうこと(年間通じ力を入れている。	事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。その運営のチェック機能として ①学園の常務会議、 ②学校ごとの戦略会議(運営責任者会議)、 ③運営会議(学科責任者会議)、 ④学科会議、部署会議があり、計画遂行の確認をする。 問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。		
4 運営組織	5		意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	会議については下記2点を重視している。 ①会議の進行ルール ②議題発信と議事録配布・保管のルール また、会議についての研修を実施している。		
5 人事・給与制度	5		採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や資金決定が行われている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務も過程を評価できるようプロセス評価を導入している。目標は常に、健全な学校運営、学科運営を実現できているかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。		
6 意思決定システム	5		法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうこと(年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議、課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	会議は、 1. 法人理事会・評議員会 最高議決機関 2. 学校戦略会議 運営方針の起案会議 3. 法人学校運営会議 運営方針の問題を発見・対策立て会議 4. 運営会議 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議 決定事項の周知 6. 学校学科会議・部署会議 部署の問題解決会議 7. グループ各委員会会議 広部委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広報倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員会・キャリア教育委員会 8. 他、様々なプロジェクト会議がある。		
7 情報システム	4		個別ごとのセクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたこと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによるものである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。	特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。		

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

日実施]

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	平均
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1				
3 教育活動	8 目標の設定	5		教育指導要領、学生便覧において、教育編成の方針、教育到達レベルについては明示されている。資格に対する指導、支援体制も明確になっており、現状、この項目についての課題は無い状況である。		5
	9 教育方法・評価等	5		滋慶教育科学研究所(JESC)にて、教育課程作成方法、授業改善に取り組んで来ている。多様化する学生に対して、より精度の高い、幅広いカリキュラム構築が今後必要になる。教育課程編成会による委員との協議も教科課程作成には大きく参考にしている。		
	10 成績評価・単位認定等	5		毎年、学生便覧掲載内容、学則施行細則の見直しを行っており、単位認定、成績評価については入学前、入学直後のオリエンテーションや初年次教育において、詳細な説明を実施している。また成績評価、単位認定の基準に未到達が予測される学生への、補習・特別授業、カウンセリングも早期に実施し、全ての学生が卒業できる体制作りを実施している		
	11 資格・免許取得の指導体制	4		各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。学園全体で国家試験対策センターを設置しており、1年に数回の、資格対策研修会・勉強会に、全教員が参加して、資格合格に向けての指導方法・指導体制について勉強し改善を図っている	模擬試験や特別対策講座を各資格で取り入れている。	
	12 教員・教員組織	5		教員・資格・研修については、制度・内容も充実した体制をとっている。校務分掌による、常勤にスムーズな学校運用はもちろん、非常勤教員との情報共有や教授力の向上については、様々な取り組みを行っている		
4 学修成果	13 就職率	4		今年の就職は新型コロナウイルスの影響で対面での就職活動からオンラインでの活動への対応など、産学共に変化対応に追われた。求人採用の減少、募集時期の延期、停止が相次ぎ、就職難に陥る学生が多数存在した。その中で、わずかな求人でも内定を獲得できるような仕組みづくりが最優先と考え、情報収集から面接準備までを学生自身が自らできるよう、オンラインを活用した整備を行った。	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。 キャリアセンターの目的は ①入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ②在校生に対しての就職支援在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、現場実習等をサポートし、プロ意識を養い育ていく。 ③同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援	4
	14 資格・免許の取得率	4		カリキュラムの見直しはもとより、日々の学生の理解度向上のため教育プログラムの構築に努めている		
	15 卒業生の社会的評価	3		卒業後1年目の勤務状況調査を毎年実施しており、平成27年度の調査(平成27年3月卒対象)では21.5%、平成28年度(平成28年3月卒対象)では17.7%、と少しずつ減少し令和2年3月卒業生では13.5%となる。		

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

日実施]

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	平均
		極めて優れている…5	優れている…4			
5 学生支援	16 就職等進路	4		開校以来、専門就職と内定100%に向けての就職支援・指導の徹底を教職員一丸となって取り組んでいる。就職支援・指導のため、開校以来教務部だけでなく、キャリアセンターを設け、求人票の獲得や、学生の内定を勝ち取るためのシステムを構築している。	【学内企業説明会の実施】 企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼びし、面接試験などを行ってもらう。 【履歴書作成十面接指導】 自己PRと志望動機について、学生と相談しながらより魅力的な内容となるよう、徹底指導を実施。また面接本番に向け、学生は職員から面接指導を受けることを基本的に義務化している。そして、面接指導をした職員は、各学生のウィークポイント克服に向けて、他の職員に情報を共有し次の面接練習に活かす工夫をしている。	5
	17 中途退学への対応	4		専門学校の退学者率の水準が一般に10%と言われている中で、本校の低減度合は高いレベルにあると思われる。ひとり一人の学生に合わせた支援体制が構築されつつあるが、入学生の変化に柔軟に対応できる体制が求められる。	基礎学力不足の学生向けの補習や、学生ひとり一人の相談にのれるよう定期的なカウンセリングなどに力を注いでいる。	
	18 学生相談	5		JTSCを設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制が既に整備され、有効的に機能している。全教職員が「JESC教員カウンセラー資格」を取得し、学生の問題早期発見に結びついている。また、毎年行うサポートサングラーム問題発見に大きく貢献している。相談内容、相談件数等の分析をし、カウンセラー自身が担任研修を行うなどの取り組みも行っている。	全教職員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESC教員カウンセラー資格」を取得しカウンセリング技術の統一を図っている。心理学・カウンセリング基礎知識の習得のより学生相談室との連携がスムーズになっている。今後留学生向けの学科も設置するため、現行の各部署のサポートに加え、専門かつ総合的に支援できる留学生支援センターを設置する。	
	19 学生生活	5		様々な側面からサポートを必要とする学生が多く、学校もそれに充分応えられるよう学園およびサポート企業のスケールメリットを生かした体制を作っている。その中でも特に学費サポートのニーズは高く、学園内専門の教育を受けたフィナンシャルアドバイザーを常駐させている。		
	20 保護者との連携	4		入学から資格取得、就職、卒業に至るまで保護者の協力は重要と考えており、入学時から保護者連携の体制を確立している。各保護者会には多くの保護者の参加があり教育に関する関心が高く個別相談希望者が多い。		
	21 卒業生・社会人	3		想定される様々な事案での支援策を講じている。成功例、失敗例をケーススタディとし職員研修で役立てている。担任自身が解決できない問題は速やかに担当部署や担当者と連携を取るシステムが出来上がっている。		
6 教育環境	22 施設・設備等	5		実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかかなり高いレベルで整備されていると考えている。各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全て満たす環境として、認可を得ている。ICT教育設備の充実にもチャレンジしていく。		5
	23 学外実習、インターンシップ等	4		学外実習や海外研修を行うことは、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。コロナ禍での学外実習と海外研修(国際教育)の在り方を考える必要があり、その考えを形にすることが新しい教育につながると思う。		
	24 防災・安全管理	4		防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ避難手順や対応方法を指示し実施している。また、救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。安全管理委員長の元、安全管理委員会を実施し、安全管理に努めている。また防犯対策として、防犯カメラの増設設置を行った。	防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 【AEDの校舎設置】 校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)計1台を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。また教職員には、使用方法の講習済みである。 教職員向けに心肺蘇生法の講習を定期的に行っている。 【新型コロナウイルス感染対策】 校舎入り口付近に検温装置設置、各階に手指消毒ができる環境を整える。トイレにも手指消毒ができるように配置した。 掃除道具にもアルコール消毒とペーパータオルを常備した机、イス、道具の消毒ができるようにしている。 週3回専門業者に依頼して館内の全ドアノブ、電気・エアコンのスイッチ、共用部分の消毒を実施している。	

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	平均
		極めて優れている…5	優れている…4			
7 学生の募集と受け入れ	25 学生募集活動	5		学生募集活動は、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則をもとに、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	学校として、学生募集活動を入学前教育と位置づけており、受験生の①職業適性の発見・開発②目的意識の開発の支援をしていく重要なプログラムであると考えている。	5
	26 入学選考	5		福岡県専修学校各種学校協会の定めによるルール、及び学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。	将来の希望分野への適性を見極めるため、面接の比重を多くしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている	
	27 学納金	5		学納金は適正かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開の体制を取っている。学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。経済的困難な家庭も増えているため、学納金は注目される件である。無駄な要素がないよう教材や講師の選定、授業運営は慎重に行っている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつてのアドバイスを実施している。	
8 財務	28 財務基盤	5		将来の安定した財務基盤が保てるよう、毎年5か年の予算を組んでいる。これにより中長期的視点で、予算を管理することができている。	キャッシュフローを重視した運営をしている。また、単年度の予算を綿密に作成している。指揮命令の系統が明確になっており、内部承認体制が確立されている。	5
	29 予算・収支計画	5		予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているのが妥当な方法と考えている。5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実的に即した予算編成になっているものとする。	予算を立てるだけでなく一年の流れの中で随時見直しをしている。それにより収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。	
	30 監査	5		現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成しているとする。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。	
	31 財務情報の公開	5		財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。	
9 法令等の遵守	32 関係法令、設置基準等の遵守	5		法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、平成17、18年度で完全に整備させた。また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	5
	33 個人情報保護	5		平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙(=研修制度確立済み)と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。	
	34 学校評価	5		職業実践専門課程の申請によりHPの構成を見直すことができ、情報公開のページを分かりやすく変更した。	学校ホームページにて学校情報を公開している。	
	35 教育情報の公開	5		自己評価及び学校関係者評価について討議をした結果、平成25年度から学校関係者評価の実施に向けた取組みを行なうことと合わせて、自己点検・自己評価は原則として全文公開することが決まり、平成25年度よりHP上で公開を行っている。	学校ホームページに情報を掲示している。	
10 地域社会貢献	36 社会貢献・地域貢献	4		海外との国際交流プログラムは研修費用の面で参加できない学生も多い。国内で学習できる国際性教育もプログラム化している。コロナ禍でできる海外研修、国際交流プログラム作りが必要である。		4
	37 ボランティア活動	4		学生のボランティア活動に関しては、現状学校主導でサポートしている部分が主である。今後、全ての学生が、ボランティア精神を持って、主体的に活動できるような教育プログラムを構築する必要がある。		